



JBA コーチライセンス制度 改定版

2014年5月14日

公益財団法人日本バスケットボール協会
テクニカル委員会

目次

1.	はじめに	P 3
2.	コーチライセンス制度 全体像	P 4
3.	コーチライセンス制度 細目一覧	P 5
4.	大会のレベルと必要資格	P 6
5.	養成計画	P 7
6.	段階的施行	P 8
7.	窓口の一本化	P 9
8.	E級コーチ新設	P 10
9.	都道府県バスケットボール協会講習会開催モデル	P 11
10.	資質向上のための施策	P 12
11.	リフレッシュ研修	P 13
12.	登録証の活用と大会での資格チェック	P 14
13.	指導者育成委員会の連携強化	P 15

1. はじめに

(背景と目的)

日本バスケットボール協会は、世界に通じるナショナルチームの育成と、さらなるバスケットボール競技の普及・発展のために様々な事業を展開している。そこでは、指導者の資質向上が不可欠であり、日々成長するバスケットボールを愛する子どもたちと同様に指導者自身も変わらなければならない。そのためには、常に世界に通用する選手の育成を視野に入れた広いビジョンを持ち、幼い頃から正しい基本(ファンダメンタル)の徹底と発育・発達段階に応じた一貫指導を十分に理解してもらう必要がある。

<指導者養成制度の流れ>

日本バスケットボール協会では、バスケットボール競技の健全な普及・発展、競技力の向上を目指して、指導者養成事業を展開してきた。その一つに、指導者の資質と指導力の向上、社会的信頼の獲得、組織的な連携活動の推進を目的とした「指導者養成制度」がある。1986年には、日本体育協会が「社会体育指導者の資格付与制度」をスタートさせ、日本バスケットボール協会でもこの制度の中で、指導者養成に取り組んできた。更に各方面からの指導者確保の声に応え、2001年より日本体育協会の「社会体育指導者の資格付与制度」に独自の「指導者ライセンス制度(JBA公認コーチ)」を組み込み、制度の充実を図った。その結果、現在、JBA公認コーチ資格取得者数は、全国で**13,000人**を超えるまでに到達した。

<公認コーチ制度の問題点>

2009年から2010年にかけて47都道府県の指導者育成委員長へのヒアリングを行った結果様々な問題点が明らかとなった。

- ・日体協公認指導者制度に準じて取り組んでいたが、後にJBA公認コーチ制度を導入したことによる資格の二本立てから生じる混乱
- ・JBA公認コーチ資格の必須を条件とする、各大会への適用範囲の問題
- ・ミニ、中学、高校に多くみられる外部コーチやバスケットボールを専門としない引率者(顧問)に対する資格取得問題
- ・日本のトップレベル指導者のライセンス取得問題(上級レベル資格の講習会受講機会の不足)
- ・その他

これらの問題を改善するために育成部・指導者育成委員会WGにおいて2009年から検討を重ね、現行「コーチライセンス制度」の見直しを行い、2015年度にコーチライセンス取得の完全義務化を目指すことを提案する。

2. コーチライセンス制度 全体像

JBAコーチライセンス制度改定版

《2010年度》

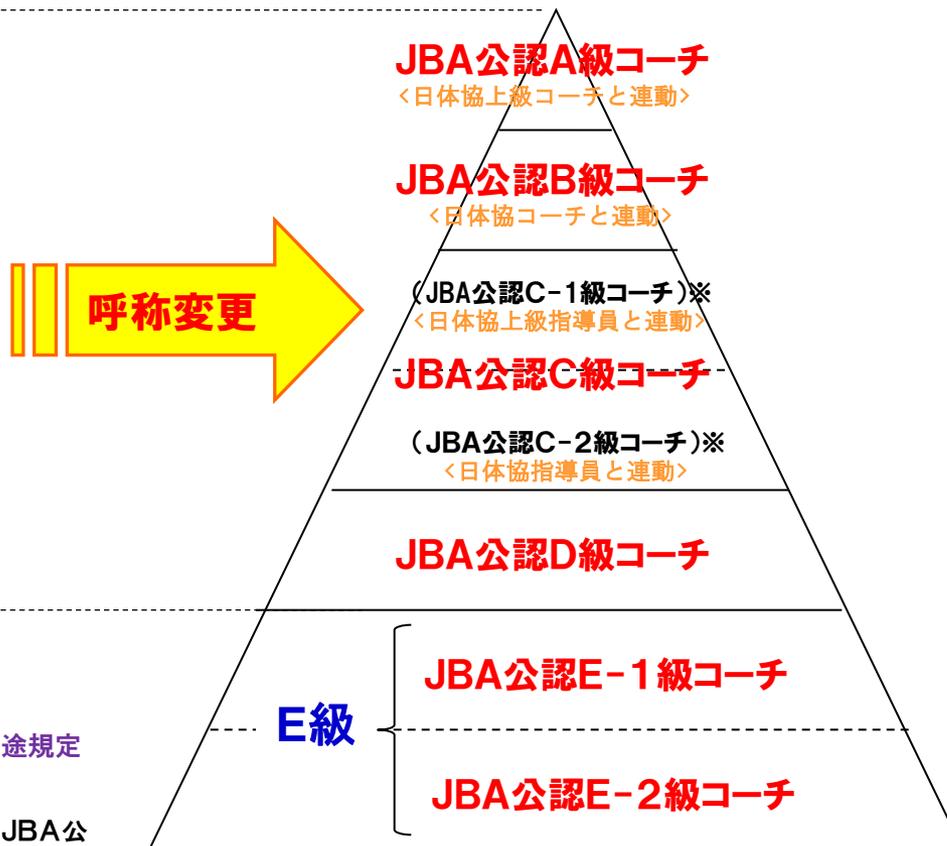
FIBA公認コーチ

日体協 & JBA認定	上級コーチ
	コーチ
	上級指導員
	指導員
JBA認定	JBA公認コーチ

《2011年度以降》

FIBA公認コーチ

JBA公認S級コーチ(予定)



※トップリーグにおける外国籍コーチについては別途規定に基づき、コーチコミティグループで審査を行う。

※上級指導員の養成は2012年度をもって終了し、JBA公認C-1級コーチにはB級の取得を推奨する。その後2015年度以降はC-1、C-2の呼称を「JBA公認C級コーチ」に統一する。

3. コーチライセンス制度 細目一覧

JBAコーチライセンス制度改定版

共通 IV ■集合22h+□通信18h 専門 ●集合20h+○通信20h							
共通 III ■集合33h+□通信49.5h 専門 ●集合40h+○通信20h							
共通 II ■集合7h+□通信28h 専門 ●集合16h+○通信4h							
共通 I □通信35h							
専門 ●集合16h+○通信10h							
専門 ●集合8h							
専門 ●集合6h							
↑ ■: 共通科目集合講習 □: 共通科目通信教育(自宅学習) ●: 専門科目集合講習 ○: 専門科目通信教育(自宅学習)	JBA公認E-2級コーチ	JBA公認E-1級コーチ	JBA公認D級コーチ	JBA公認C-2級コーチ	JBA公認C-1級コーチ	JBA公認B級コーチ	JBA公認A級コーチ
日体協資格との運動	-	-	-	(指導員)	(上級指導員)	(コーチ)	(上級コーチ)
講習会開催主体	都道府県	都道府県	都道府県	都道府県	都道府県	JBA	JBA
開催頻度	年2回以上	年1回以上	年1回以上	年1回以上	現取得者に5年以内に「JBA公認B級コーチ」の取得を推進する	年2回以上 (日体協+JBA独自)	3年に1回
専門科目講習時間	6h	14h	40h (集合30h+通信10h)	40h (集合30h+通信10h)		60h (集合40h+通信20h)	40h (集合20h+通信20h)
受講料(専門)	¥ 2,000	¥ 5,000	¥ 15,120	¥ 15,120		¥ 10,800	¥ 17,280
受講料(共通)				¥ 21,600		¥ 19,440	¥ 28,080
受講料(合計)	¥ 2,000	¥ 5,000	¥ 15,120	¥ 36,720		¥ 30,240	¥ 45,360
初回事務手数料	¥ 1,000	¥ 1,000	-	-	-	-	-
登録料/年(日体協分含む)	¥ -	¥ -	¥ 3,000	¥ 4,000	¥ 4,000	¥ 5,000	¥ 6,000
受講有効期間	1年	2年	4年	4年	4年	4年	4年
義務研修	不要	不要	2ポイント	2ポイント	2ポイント	2ポイント	2ポイント
資格有効期間	永年	永年	1年	1年	1年	1年	1年
受講条件	16歳以上 (高校生可)	18歳以上 (高校生不可)	18歳以上 (高校生不可)	18歳以上 (高校生不可)	18歳以上 (高校生不可)	C級保有者 22歳以上	B級保有者 30歳以上

今後検討

JBA公認S級コーチ

今後検討

*初回事務手数料とは、会員登録管理システム(TeamJBA)での登録・管理のための手数料。

*消費税率の引き上げに伴い、2014年4月よりD級以上の受講料が変更。

4. 大会のレベルと必要資格

下記公式戦で指揮をとるコーチは、表の通り必要資格を保有していることとする。

カテゴリー	サブカテゴリー	大会名	全国	ブロック	都道府県	地区	備考
一般	—	全日本総合選手権大会(オールジャパン)	D級	D級			
	—	国民体育大会	C-2級(*1)	C-2級			*1 特別措置なし
	—	全日本社会人選手権大会	C-2級				
	—	日本スポーツマスターズ	C-2級(*1)				*1 特別措置なし
	NBL,NBDL,WJBL,bjリーグ	リーグ戦	B級				
	実業団	全日本実業団選手権大会	C-2級				
		(上記以外の大会)					
	クラブ	全日本クラブ選手権大会	C-2級				
		全日本クラブシニア選手権大会	D級				
		全日本クラブスーパーシニア交歓大会	D級				
	(上記以外の大会)						
	教員	全日本教員大会	C-2級				
		(上記以外の大会)					
	大学	全日本大学選手権大会(インカレ)	C-2級				
		(上記以外の大会)					
	専門学校	全国専門学校選手権大会	E-2級				
		全国専門学校選抜大会	E-2級				
		(上記以外の大会)					
	ママ	全国ママさん交歓大会	E-1級				
		(上記以外の大会)					
高専	全国高等専門学校体育大会	C-2級					
	(上記以外の大会)						
U-18	高校	全国高等学校選抜優勝大会(ウインターカップ)	D級(*2)				*2 C-2級への変更を協議中
		高校総体・全国高等学校選手権大会(インターハイ)	(*3)				*3 ライセンスを取得していることが望ましい
	(上記以外の大会)						
高校(定通制)	全国高等学校定時制通信制大会	(*3)					*3 ライセンスを取得していることが望ましい
	(上記以外の大会)						
U-15	中学	ジュニアオールスター大会	C-2級				
		全国中学校大会	(*3)				*3 ライセンスを取得していることが望ましい
		(上記以外の大会)					
U-12	ミニ	全国ミニ大会	D級	E-1級	E-2級	E-2級	
		(上記以外の大会)					

備考

- 空欄については今後、各団体と協議して決定する。
- 特別措置:①受講中の場合は認める ②チーム就任1年目に限り免除とする

5. 養成計画

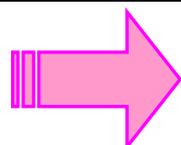
有資格者を養成するために、数値目標を持って計画的に指導者養成を行う。

	2011年	2013年 現状	養成目標	割合
JBA公認A級コーチ (上級コーチレベル)	139名 [1.2%]	133名 [1.0%]	350名	1%
JBA公認B級コーチ (コーチレベル)	263名 [2.3%]	347名 [2.6%]	1,050名	3%
JBA公認C-1,C-2級コーチ (指導員・上級指導員レベル)	4,014名 [35.0%]	4,704名 [35.7%]	8,750名	25%
JBA公認D級コーチ	7,039名 [61.4%]	6,776名 [51.4%]	17,500名	50%
JBA公認E-1級コーチ	—	762名 [5.8%]	7,350名	21%
JBA公認E-2級コーチ	—	452名 [3.4%]		
	11,455名	13,174名	35,000名	100%

<参考>

2013(H25)年度
登録チーム数

34,284チーム



2015年には登録全チームのコーチが該当する資格を持つことを目指す。

6. 段階的施行

2011年より一部改定を行い、**2015年に完全施行**を目指して段階的に施行する。

	実施内容	大会参加条件
2011年度 ▼ 1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・資格名称の変更 ・日体協上級指導員養成講習会の開催中止 	周知・徹底のみ (現行通り)
2012年度 ▼ 2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・JBA公認E-1級, E-2級コーチの養成開始(予定) 	周知・徹底のみ (現行通り)
2013年度 ▼ 3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・登録有効期間を1年間に(以後、1年更新) ・登録開始時期の統一 	持っていることが望ましい。
2014年度 ▼ 4年目	<ul style="list-style-type: none"> ・試合会場でのコーチ登録証ぶら下げ開始 	原則として持っていること。
2015年度 来々	<ul style="list-style-type: none"> ・完全義務化 	必ず持っていること。

7. 窓口の一本化

現在、日本体育協会への手続きとJBAへの手続きはそれぞれ行うこととなっており、窓口が二つあることが混乱や誤解、不整合が起こる要因となっている。

今後は窓口および登録証も一本化することでよりシンプルでわかりやすい仕組みを目指す。

JBAへの手続き ; 本人が都道府県協会経由でJBAに手続きし、登録料を納入する。

日体協への手続き ; 本人が直接日体協に手続きし、登録料を納入する。

本人は二度手間☹️

二重のデータ管理

認定時期および有効期間の
違いにより、
様々な不整合が発生

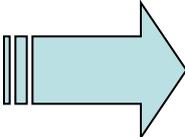
一方の資格だけ有効期限切れ？

一方だけ手続きすればよいという誤解

日体協資格があるかどうか(追加で日体協の資格をとっているか、有効期限切れになっていないか)で登録料が違うため、更新時の事務作業が非常に煩雑。

<改定後>

⇒登録窓口はTeamJBA(新会員登録管理システム)に一本化し、JBAにてデータ管理を行う。また、そのデータを日体協と共有する。

	日体協	JBA		日体協+JBA
資格有効期間	4年	2年		1年
認定時期	4月or10月	随時		4月
登録料	10,000円/4年	5,000円/2年 or 10,000円/2年		資格別に設定し、 JBAが一括徴収

8. E級コーチ新設

現状のJBA公認コーチ(40h)の内容を細分化して6hコース、14hコースの単位認定を行い、底辺の拡大を目指す。

JBA公認コーチの最下級レベルは、バスケットボール専門科目の40時間
(集合講習30時間+通信10時間)

4日間の講習を受けないと資格が取れない。

=時間数のハードルが高く、資格が取りにくい。

=全てのコーチに資格を持たせることが難しい。

<現状>

全ての指導者に“資格を持たせる=必要な知識の共通理解を深める”ために、半日または2日で取れる新たな資格を設け、**資格の取得を徹底**するとともに**ステップアップできる仕組みを構築**する。

★JBA公認E-2級コーチ : 半日コース, 6時間講習

★JBA公認E-1級コーチ : 2日コース, 14時間講習(6時間+8時間)

9. 都道府県バスケットボール協会講習会開催モデル

JBAコーチライセンス制度改定版

都道府県バスケットボール協会が行う講習会について、内容、レベルの統一化を図る。

	1日目	2日目	3日目	4日目
9:00				
10:00		2h	2h	2h
11:00				
12:00	集合	2h	2h	2h
13:00	2h			
14:00				
15:00	2h	2h	2h	2h
16:00				
17:00	2h	2h	2h	2h
18:00				
	6h	8h	8h	8h

JBA公認D級コーチ
養成カリキュラム (計30h)

JBA公認E-1級コーチ
養成カリキュラム (計14h)

JBA公認E-2級コーチ
養成カリキュラム (計6h)

●都道府県協会は一つのプログラムを実施することで各レベルのコーチを養成することが出来る。

#都道府県協会の負担を増やすことなく、JBA公認E-1級、E-2級コーチの養成が可能。

#受講料の有効活用が可能。

10. 資質向上のための施策

指導者の資格向上を図るため、以下のような施策を行う。

(尚、対象はJBA公認D級コーチ以上とする。)

・トップレベルの試合観戦

対象試合:天皇杯・皇后杯(オールジャパン)、インカレ、
ウインターカップ、ジュニアオールスター

・コーチクリニックの開催

全国バスケットボールクリニックを毎年定例化して行う。

・コーチライブラリ

TeamJBAを活用し、インターネット上で閲覧可能なコーチライブラリを設置する。

内容例:コーチクリニックの映像、日本代表のレポート等



平成21年度全国バスケットボール
コーチクリニックより

11. リフレッシュ研修

- ・JBA公認D級コーチ以上の資格については、リフレッシュ研修受講を更新のための必須内容として義務付ける。

- ・リフレッシュ研修はポイント制とする。

必要ポイント数 : 2ポイント

ポイント基準

(1) 1. 5時間の講習会 : 1ポイント

(2) 3時間の講習会 : 2ポイント

(3) JBA又は都道府県協会が指定する試合観戦等及びレポート提出 : 1ポイント

ト

- ・リフレッシュ研修の受講管理はTeamJBAを利用して行う。

- ・各都道府県協会およびJBAは最低年2回以上リフレッシュ研修の機会を設ける。

- ・有効期間内にリフレッシュ研修を受けなかったものは資格失効となる。



スポーツサイエンステクノロジー2010
バスケットボールセミナーより

12. 登録証の活用と大会での資格チェック

- ・大会申込書にコーチ資格およびメンバーIDを記載する。
- ・ベンチでは発行されたコーチ登録証を首から提げる。



ストラップデザイン



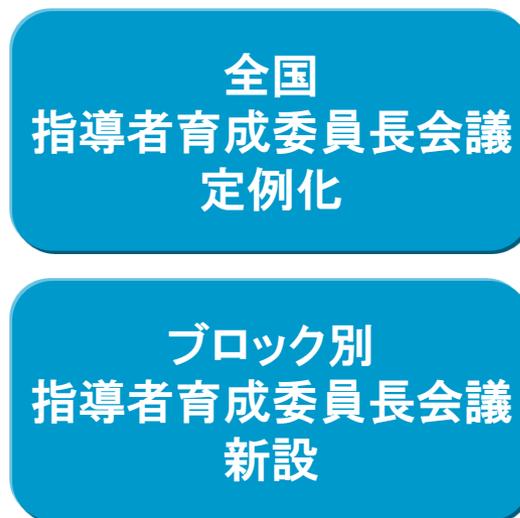
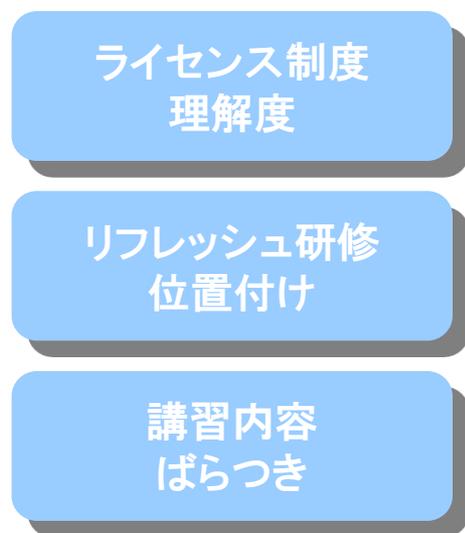
13. 指導者育成委員会の連携強化

JBAコーチライセンス制度改定版

47都道府県協会すべての指導者育成担当者にヒアリングを行った結果浮かび上がってきた問題点を是正し、新たなライセンス制度を構築、確立するため、組織間の連携を強化する。

<都道府県協会における問題点>

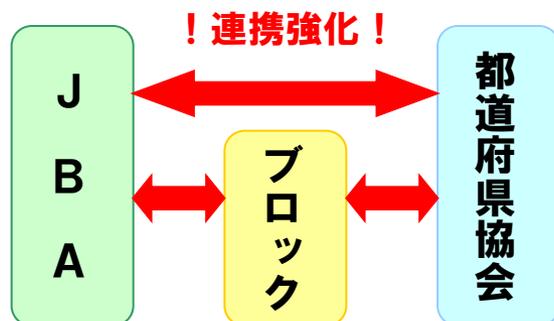
<JBAとしての今後の対策>



2015年までに新たなコーチライセンス制度の確立を目指すため、2年に一度全国指導者育成委員長会議を開催し、情報を正確に伝達し、周知・徹底を図る。

地方においては都道府県協会による実情の違いも大きく、都道府県協会のみでは対処が困難な問題も起きている。また、ブロック単位の養成講習会、コーチクリニックを行っていくにあたり、ブロックの組織化を図る。

⇒「全国指導者育成委員長会議」と「ブロック別指導者育成委員長会議」を隔年で実施する。



**あらゆる関係者方々の理解、協力がなければ
コーチライセンス制度は
成り立たない！**